

平成28年度事務事業評価シート(27年度実績)

◎基本情報

事務事業名	救急救命士養成事業			担当部署	消防本部 予防課	
総合計画体系				根拠法令計画など	救急救命士法	
基本政策(大項目)	3	しっかり安心・快適住み良いまちづくり			事業期間	開始
政策(中項目)	1	安心して暮らせるまち なると			終期	平成 5 年度
(小項目)	△	救急				
施策	3	救急救助・医療体制の充実				
基本事業	1	救急体制の充実				未定 ▾

◎事業概要(PLAN)

事業対象	誰(何)を対象にしているか	<input checked="" type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 内部管理
		救命率の向上を図るため、高度な専門技術を持つ救急救命士を計画的に養成し、市民に安心安全を、提供する。 消防職員のうち、250時間の救急課程修了者で5年以上の実務経験を有する者。
事業目標	対象をどのような状態にしたい(目指す)のか	救急出場時の救命士乗車率を100%にする。また救急救命士の資格を有する職員が実施できる高度な救命処置(特定行為)についてもその質を確保し、維持向上を図るために、講習、研修等に派遣する。
事業計画	27年度に何を計画していたか	救急救命士を養成するために九州研修所に職員を派遣するとともに新規職員採用時に、救急救命士の資格を有する者を採用する。また救急救命士の有資格者が実施できる高度な救命処置(特定行為)についても、その質を確保し維持向上を図るため、気管挿管(30症例)1名、ビデオ喉頭鏡挿管病院実習(5症例)2名を派遣する。平成27年度4月より救急救命士の処置拡大に伴う追加講習(血糖値の測定・ショック患者への静脈路確保)に6名派遣する。
成果目標	事業目標の達成度合	26年度 27年度 28年度 29年度 30年度 単位 救急救命士の乗車率 100 100 100 100 100 %

◎実施結果(DO)

事業実施内容	27年度は目標を達成するため、手段としてどのような活動を行っているのか	ほぼ計画通り。						
		事業実施手法	<input type="checkbox"/> 市実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他	指標名	26年度実績	27年度実績	28年度目標	29年度目標
活動指標 実施した事業の活動量を示す指標	1 救急救命士(実働数)		15	17	18	20	21	名
	2							
成果指標 対象にどのような効果があったか示す指標	救急救命士の乗車率	99.6	100.0	—	—	—	—	%
	目標達成率(実績/目標)		100.0	—	—	—	—	%
今年度の進捗状況	計画どおり	事業全体の進捗状況	ほぼ計画どおり					(千円)

財源内訳	年度	区分	国	県	地方債	その他特定財源	一般財源	事業費計
	平成27年度	当初予算額	0	0	0	0	3,377	3,377
		全体予算額	0	0	0	0	3,377	3,377
		決算額	0	0	0	0	3,221	3,221
		繰越額	0	0	0	0	0	0
		人件費	正規職員(6,859千円/人)	臨時職員(2,071千円/人)	総人件費	総事業費		
			0.1	0.0	686	3,907		

【事務事業名：救急救命士養成事業】
(千円)

事業費推移	年 度	26年度決算	27年度決算	28年度	29年度	30年度
	事業費	3,118	3,221	3,327	3,327	3,327
	うち一般財源	3,118	3,221	3,327	3,327	3,327
	人件費	686	686	686	686	686
	総事業費	3,804	3,907	4,013	4,013	4,013

◎項目別評価(CHECK)

評価項目		評価値		所見欄
①活動に対する評価	有効性	A:有効性があった		救急救命士の乗車率が向上し、傷病者に対する応急処置の一定の質が確保できた。
	効率性	A:効率的だった		救急救命士の養成、採用により救急救命士の実働数が増加しました。
②成果に対する評価	指標名	救急救命士の乗車率		目標としていた、救急救命士の救急車乗車率100%を達成しました。救急出場件数(2,450件)
	目標	100	%	
	実績	100.0	%	
	評価	A:目標を達成できた		
③総合的な評価		A		計画していた通り、救急救命士の養成、研修等は参加できましたが、救命士の再教育2年で128時間(内、病院実習48時間)に派遣できませんでした。

◎今後の方向性(ACTION)

課題	現状、救急出場要請と火災・救助出場重複時には、非番職員召集並びに本部職員で対応していますが、十分な救命士数とはいえません。救急救命士の乗車率100%を維持しながら、今後救急業務充実のため救命士の複数乗車を考慮し、引き続き救急救命士の養成及び救命士の資格を持つ職員の採用を行う必要があります。また、救急救命士(救急隊員を含む)の生涯教育体制の確立を図るため、指導的立場の救命士を養成する。					
	今後の方向性	1.廃止	2.要改善	3.現状維持	4.拡充	4
↓今後の方向性を踏まえた上で、以下の欄に記入してください。						
実施内容	平成28年度	計画通り、救命士の養成、研修等に派遣します。				
	平成29年度	計画通り、救命士の養成、研修等に派遣します。				